

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100180		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ザストーリー東海		
所在地	愛知県東海市富木島町新藤塚30番		
自己評価作成日	令和2年3月25日	評価結果市町村受理日	令和2年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394100180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	令和2年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な役割を個々に持っていていただいている。 ・立って歩いて踏ん張って、今を大切にその人らしい活力ある生活を掲げている。 ・毎日体操を行う事、できるだけ布パンツでの生活の維持。 ・毎月外出行事の実施 ・併設する保育園園児たちとの交流により生きがいを感じていただく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームには、特別養護老人ホームの他にも子どもが利用する保育所を併設して開設していることで、子どもから高齢者までの幅広い世代の支援が行われていることが特徴でもある。地域の方との交流については、併設事業所とも連携しながら事業所全体で行われており、地域で行われている行事の際には、事業所の敷地を活用してもらい取り組みが行われている。今年度の取り組みとして、地域の方や地域包括支援センターとも連携しながら、事業所のスペースを活用した地域包括ケア会議でもある「第1回富木島エリア意見交換会」を開催しており、地域貢献につながる取り組みが行われている。また、職員研修についても、今年度から職員一人ひとりの資質等に合わせた「e-ラーニング」を通じた職員研修の取り組みが行われており、事業所全体で職員の資質向上に合わせた取り組みが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「尊厳を大切にするケア」利用者の意思と人格を尊重し、利用者の立場に立ってサービスの提供に努めます。上記を受け日々アセスメントを実施し個別ケアを実践しています。	「尊厳を大切にするケア」を支援の基本に考えながら、利用者がその人らしく生活することを目指した内容を掲げている。また、基本理念の他にも、各ユニットの名称を音楽から採っており、人生はリズムが大切であるとの思いが込められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月交流している。地域行事への参加、併設する特別養護老人ホーム、認可保育園と一緒にの地域交流。また、近所の方が傾聴ボランティアとして毎週活動して頂いております。	地域の方との交流は事業所全体で行われており、地域で行われている行事の際には、事業所の敷地を活用してもらい取り組みが行われている。また、地域のボランティアの方による行事が行われており、事業所のスペースを活用した取り組みも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2カ月毎に開催している運営推進会議を利用して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービス向上に活かしている。会議において現状報告・運営状況報告等を行い、ご家族様からのご意見も毎回必ずいただきサービス向上に活かしている。	会議は併設の特養と連携しながら開催し、細かな運営状況の報告が行われており、出席者に事業所全体の状況を理解してもらい働きかけが行われている。また、家族の参加が得られており、家族との交流も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃より協力関係築いている。東海市内グループホーム7事業所との連絡会に出席し情報交換をしている。	広域連合や市町村との情報交換等については、事業所全体で行われているが、研修等の際にはホームからも職員が参加している。また、地域包括支援センターとも連携しながら「地域ケア会議」が行われており、情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、開放的な空間をつくり、職員間で利用者の見守らが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討委員会の他にも、e-ラーニングを活用した研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修・会議・e-ラーニングにて学び防止に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法務省民事局発行の成年後見制度資料・相談窓口、リーガルサポートあいち資料をすぐ手の届く所に準備してある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、担当者会議等意見要望を取り入れている。2カ月に1度運営推進会議を開催しご家族・地域の方々よりご意見を毎回いただき運営に反映させている。	事業所やホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。家族からの要望等については、担当職員の他にも管理者でもある施設長による対応も行われている。また、利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	十分であるとは言えない。リーダー会議・ユニット会議等に管理者出席して意見や提案を反映させつつある状況	毎月の職員会議の際には、施設長も参加する機会をつくるようになり、職員からの意見等を把握する機会につなげている。また、日常的にも職員間で情報交換をつくる機会をつくりながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。	次年度から2ユニットとしてリーダーを配置する体制を予定している。職員からの意見等がホームの運営に反映されるような取り組みにつながることも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員も定着し介護体制も手厚く介護サービスの質の向上が図られつつあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	集合研修はなかなか難しい状況のため、インターネットを活用した教育と介護福祉会より案内のあった基礎研修を4回に分けて全職員受講していただきました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者、計画作成担当者が定期的にグループホーム連絡会に参加し同業者との情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努めています。利用者様の中には今まで通っていた体操教室・カラオケ教室等への送迎支援をして馴染みの方たちとの関係継続を図っています。	利用者の中には、本人の意向にも合わせて入居前からの生活習慣を継続している方があり、ホームでも外出支援等の取り組みが行われている。また、家族との外出の機会もつくられており、馴染みの関係継続につながる機会が得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	体調を崩され入院後当事業所では支援できない状態となり契約解除された方の奥様のご相談の対応等しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向の把握に努めているが、検討した結果沿えないこともある	職員間で利用者を担当する機会をつくりながら、利用者に関する現状や意向等の把握が行われている。また、利用者毎に独自のノートを用意する取り組みを行っており、職員間で情報を共有し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日頃より利用者様とのコミュニケーションを図り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	把握に努め、一人ひとりの役割を持っていた生活されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族と話し合い介護計画を作成している。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた取り組みが行われている。また、日常的にも専用のチェック表に記録を残しながら、利用者の変化等を把握し、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや工夫を記入し、情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のサークル活動の同行支援をさせていただいています。また、ボランティアの活用もしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と事業所によって実施できています。	協力医による医療面での定期的及び随時の連携が行われているが、利用者の中には別の医療機関との連携が行われており、利用者に合わせた支援が行われている。また、併設の特養の看護師との医療面での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係作りは現状良好です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	話し合いを繰り返し、チームで取り組んでいる。	身体状態が重い方にも、利用者や家族の意向にも合わせた対応が行われており、実際にホームでの支援が行われている。現状のホームの基本的な方針としては、身体状態等に合わせて次の生活場所に移行してもらうように、家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応についての研修は実施しているが応急手当等の訓練は定期的には実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災マニュアルに日中・夜間を想定した発生時マニュアルを作成し研修実施。消防訓練は併設の特別養護老人ホームと合同で実施し事業所間で連携した取り組みが行われている他にも、水や食料品等の備蓄品についても特養で管理されている。	併設事業所との合同で訓練が行われており、職員間で協力する体制がつけられている。訓練に合わせて消防署との連携が行われており、助言等の機会につなげている。また、備蓄品については、ホームのフロア内に水や食料等の確保が行われている。	夜間を想定した訓練については、次回の予定となっていることもあるため、事業間で職員が連携した対応ができるように、今後に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	心掛けている	基本理念に利用者の尊厳に配慮した支援を行うことが掲げられてあることで、職員による利用者の対応や言葉遣い等を意識するような機会につなげている。また、排泄時等の際にも、利用者のプライバシーに配慮するように職員間で意識するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	意向を出来る限り受け取り支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方に協力して頂き力を活かしている。	食事については、併設事業所の厨房から提供されており、利用者の身体状態に合わせた支援も行われている。また、ホームでもキッチンを活用しながら、季節等に合わせたおやつを提供を行う等、利用者の楽しみにつなげる取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師の助言もいただき実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来る限り自立に向けた支援を行っている	日常的な排泄記録の他にも、利用者毎に用意されたノートにも排泄に関する特記事項等を残すことで、利用者の状態等に合わせた排泄支援につなげる取り組みが行われている。特養の看護師とも連携しながら、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	出来る限り個々の希望にそって支援している	月曜日から土曜日に入浴の準備を行い、利用者は週2～3回の入浴が行われているが、随時の対応も行われている。併設の特養にリフトの設置が行われており、身体状態に合わせた入浴も可能である。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体操・ゲーム・ぬり絵・個々の役割等、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	ご家族のご協力もいただきながら出来る限り出かけられるよう支援しています。	日常的には、季節や天候等にも合わせて外出する機会がつけられており、季節に合わせた花見や外食等の機会がつけられている。また、利用者の意向等にも合わせた個別の外出支援が行われており、利用者の楽しみにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理力のある方につきましては支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お本人の希望により支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れて工夫しています	ホーム内は広いスペースが確保されていることで、利用者が日常生活の中でゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。また、共有スペースの壁面等に利用者の作品等を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れたものや好みのものを生かして居室を利用して頂けるようご相談をしています。	居室についても広い空間であり、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた身の回りの物や好みの物等の持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内だけでなく廊下の広い空間、他のフロアーも行き来できるよう工夫しています。		